

## ■産婦人科研修プログラム

### 1) 一般目標

日常診療で頻繁に遭遇する産婦人科疾患に適切に対応できるように、入院患者の受け持ちと外来診療によって基本的な臨床能力(態度、技能、知識)を身に付ける。

### 2) 行動目標

#### <産科>

1. 妊娠を診断し、週数と予定日の計算ができる。
2. 尿妊娠反応の陽性開始時期を理解し実施できる。
3. 正常妊婦の定期検診ができる。
4. 分娩経過を判断することができる。
5. 子宮口開大の程度を判断でき、小泉門を触知できる。
6. 陣痛、胎児心拍の計測ができ、その異常を指摘できる。
7. 児娩出の介助、児の処置、臍帯・胎盤の処置ができる。
8. 軟産道の損傷の有無を確認できる。
9. 産褥期の子宮底の高さが判断でき、悪露の経過を述べることができる。
10. Apgar指数を評価できる。
11. 新生児の日常的ケアができる(保育環境、水分量の計算、栄養管理、体重測定、バイタルサイン、新生児黄疸など)。
12. 産婦人科専門医に適切に紹介できる

#### <婦人科>

1. 月経前症候群を診断し治療できる。
2. 膣から異物を除去できる。
3. 子宮の大きさの判定ができる。
4. 子宮筋腫を指摘することができ、治療方針を述べることができる。
5. 不妊症の原因検索スクリーニングができる。
6. ホルモン補充療法ができる。
7. 婦人科専門医に適切に紹介できる。

### 3) 研修方法

1. 医療チームの一員として診療に参加し、研修を行う。
2. 外来診療：担当指導医と共に診察を行う。
3. 病棟診療：担当指導医と共に診療を行い、診療録を記載する。
4. 手術に助手として参加する。
5. カンファレンスで症例のプレゼンテーションをする。
6. 妊婦の超音波検査、分娩管理/第1期～産褥期（助産師と共に観察し、日中の分娩に立ち会う。会陰裂傷縫合を指導医の立会いのもと行う）。婦人科の周術期管理を行う。
7. 夜間の分娩や急患に関しては、拘束日を決めて、上級医とともに診療にあたる。
8. 症例検討会：入院患者のカンファレンスに参加する。
9. 小児科医および病棟・外来スタッフを交えた分娩予定者の検討会に参加する。
10. 産婦人科関連の勉強会、研究会、学会などに参加する。
11. 講習会、勉強会に積極的に参加する。

### 4) 評価

EPOC2で評価する。

当科独自の評価

## 産婦人科 週間予定表

		月	火	水	木	金
午前		カンファランス ・夜間当番の先生からの情報共有。 ・入院患者の情報共有。 ・手術日程の確認。	カンファランス ・夜間当番の先生からの情報共有。 ・入院患者の情報共有。 ・手術日程の確認。	カンファランス ・夜間当番の先生からの情報共有。 ・入院患者の情報共有。 ・手術日程の確認。	カンファランス ・夜間当番の先生からの情報共有。 ・入院患者の情報共有。 ・手術日程の確認。	カンファランス ・夜間当番の先生からの情報共有。 ・入院患者の情報共有。 ・手術日程の確認。
		ドック、回診	ドック、回診	ドック、回診	ドック、回診	ドック、回診
午後			手術	手術	手術	